

令和5年度 日立市総合教育会議 会議録

日 時 令和5年12月1日（金） 午前10時から正午まで

場 所 日立市役所（4階庁議室）

構 成 員 市長
教育長
教育長職務代理者
教育委員
教育委員
教育委員

関 係 者 副市長
市長公室長
保健福祉部長
教育部長
理事

説 明 員 教育委員会総務課長
教育委員会総務課課長
教育委員会学校施設課長
教育委員会学務課長
教育委員会学務課課長
教育委員会学校再編課長
教育委員会生涯学習課長
教育委員会スポーツ振興課長
教育委員会指導課課長
教育委員会指導課係長
教育委員会指導課指導主事
教育委員会記念図書館長
教育委員会郷土博物館長
教育委員会北部学校給食共同調理場長
教育委員会教育研究所長

事 務 局 教育委員会総務課職員

議 題

○日立市教育大綱改訂について

○未来を拓く資質・能力の育成について

報道関係 2社（茨城新聞社、JWAY）

傍 聴 者 無し

※ 読みやすさ等を考慮し、文意を損なわない範囲で、重複表現、言い回しなどを整理しています。

会 議 の 概 要

1 開 会

総務課長 ただいまから「令和5年度日立市総合教育会議」を開会いたします。

本日の議題は、「日立市教育大綱の改訂について」と「未来を拓く資質・能力の育成について」の2件でございます。

それでは、会議の進行を市長をお願いいたします。

市長 皆様こんにちは。

本日は、お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

ご案内のように、総合教育会議は、毎年、市長と教育委員会が一体となって日立の教育を進めていくための議論の場でございます。

また、この会議は、市長が策定することとされている「教育大綱」について協議する役割も担っており、1件目は、日立市教育大綱の改訂について、皆様のご意見を伺うものでございます。

2件目は、未来を拓く資質・能力の育成の中で、「グローバル社会を生きる子どもたちに必要な教育の推進」と「ICT機器を活用した効果的な学習の実践」として、英語学習の授業風景の動画視聴や電子黒板などの実演を行い、意見交換を進めてまいります。

2 議 題

(1) 日立市教育大綱の改訂について

市長 それでは、早速ですが、議題に移ります。

初めに、「日立市教育大綱の改訂について」、教育部長から説明をお願いします。

教育部長 議題1「日立市教育大綱の改訂について」です。

お手元に、日立市教育大綱（案）のイメージをご用意しました。説明はパワーポイントで行いますが、併せてご覧ください。

なお、下線のある部分が、現大綱から修正する箇所になります。

基本理念を「未来を拓く人づくり」とし、変化の激しい時代の中で、多様な人々と協働し、新たな価値の創造と夢に向かって未来を拓く人材の育成を目指すものです。

また、ものづくりのまちとして発展してきた本市固有の歴史や伝統を学び、郷土への愛着を深めながら、グローバル社会で生きる基礎を育みます。

さらに、人生 100 年時代を健康に心豊かに生きるため、生涯にわたって学ぶことのできる環境づくりを目指します。

教育の基本となる内容は、今の時代、次の時代にも普遍性があるものだろうということから、骨子については、現行の大綱を継続し、加えて教育を取り巻く環境の変化を踏まえ、内容の一部を修正します。

また、現在策定を進めている教育に関する計画との整合性を図るものです。

計画期間は、令和 9 年度までです。

冒頭には今回の目標として、総合計画の本市の目指すべき将来都市像にございます、「人づくり・まちづくり・そしてみんなの幸せづくり」と掲げております。子どもたちの大きな可能性を伸ばし、次代を担う子どもたちが笑顔で幸福を感じながら成長できるよう、まち全体で育てていきたいというものです。

大綱の 3 つの柱としては、ご覧の「家族が好き」「学校が好き」「ひたちが好き」として、現行の大綱を継承するものです。

『家族が好き』、愛情を感じながら、健やかに育つ」です。本市では、これまでも、きめ細やかな子育て支援に取り組んでまいりました。

引き続き、安心して子育てができる環境を整え、子どもたちの健やかな心と体を育ててまいります。

『学校が好き』、なりたい自分を夢見て、主体的に学ぶ」です。

この『学校が好き』の中に、新たに「自分が好き」という下線部分を追加しました。

子どもたちが充実した楽しい学校生活を送るためには、まずは、自分を受け入れることができる「自己肯定感」を育むことが大切です。

子どもたちが、自分の可能性を信じて、夢を描くことが楽しいと感じられるよう、子どもたち一人一人が持つよさや可能性を見出し、伸ばしていくことができる教育を目指すというものです。

『ひたちが好き』、まちのいいところを発見して、未来を描こう」です。

これは、海と山に恵まれた豊かな自然、歴史や伝統・文化など、日立のルーツを学ぶ郷土学習により、自分の育ったまちへの理解を深め、郷土に誇りを持つ教育を目指していくものです。

施策の方向性につきましては、子どもたちが変化の激しい社会を生き抜き、豊かな人生を送るために必要な「生きる力」を育むことを基本としつつ、持続可能な社会の創り手となる子どもたちの無限の可能性を見出して、伸ばしていくため、デジタル化やゼロカーボンシティをかかげる日立市として、環境教育を推進していきたいと考えております。

更に、引き続き「ひたちらしさ」を活かし、コミュニティ等との

連携を図りながら、未来を拓く人材の育成に努めます。

そして、学校教育、生涯学習、スポーツの分野ごとに現在策定中の各計画と整合させるため、計画と同じ推進テーマを掲げます。

学校教育は、『学ぶ 夢みる そして輝く』というテーマで推進してまいります。子どもたちが笑顔でいられるとともに、教職員が子ども一人一人の可能性を十分に引き出すことで、子どもたちが未来の社会の発展・充実に向けて大きく羽ばたいていけるよう、心豊かで充実した幸せな人生を送ることができる人づくりを目指すとともに、「教育は日立市で！」と思われる教育を目指します。

学校教育では、施策の6つの柱を掲げます。

施策の柱1の「確かな学力の向上と活用する力の育成」では、社会情勢等に興味を持ち物事を多面的に見る姿勢が身に付くよう新聞を授業に取り入れた「N I Eの推進」や、図書館が提供する「電子書籍貸出サービス」により子どもたちが学校や家庭で子どもたち一人一人に配布しているタブレットを活用して読書に親しむ機会を推進します。

施策の柱2の「豊かな心と健やかな体を育む教育の推進」では、子どもたちの自己肯定感を高める「未来パスポートの活用」で郷土日立への理解を深める事業の推進などを挙げております。

施策の柱3の「子ども一人一人に寄り添う教育の推進」では、先生方と生徒が向き合う時間を確保することで、より質の高い教育を提供するため、「部活動の地域移行」などを推進します。

施策の柱4の「変化の激しい社会を生き抜く能力の育成」では、今年度全普通教室に配備した電子黒板、デジタル教科書、一人一台のタブレット型端末など、これまでに整備されたICT機器を効果的に活用し、児童生徒の学習効果を高めるため、教職員の指導力の向上を図りながら、自宅学習の支援や校外学習の実施などについて検討を進めてまいります。

施策の柱5の「教育環境の充実と地域と連携した魅力ある学校づくり」では、学習環境の改善を図る「学校再編の推進」や「日立特別支援学校の整備」などを目玉として挙げています。

最後に、施策の柱6の「すべての子どもたちが安全・安心に過ごせる環境づくり」では、引き続き保護者負担の軽減などを図るため「ランドセルやスクールカバンの贈呈」や「大学や専門学校等への進学支援」などを挙げています。

次に、生涯学習の推進テーマでは、「自分らしく 笑涯（しょうがい）輝く」というテーマを掲げております。「生」きるという字を「笑」うという字に変えておりますが、いろいろな場面でこの「笑」うという字に変えた意図が伝わりにくいのではないかと、というようなご意見を教育委員の皆様からもいただいております。本来の「生涯」という字に訂正する方向で検討しておりますので、まともりましたら、改めてご報告させていただきたいと考えているところでござい

ます。この「笑う」という字を当てました背景には、市民一人一人が笑顔で、生涯100年という長い生涯を通じて、生き生きと学びつづけていただきたいという意図がございますので、この説明を加えていきたいと考えております。

生涯学習については、「いつでも どこでも だれでも まなびあう」まちづくりを目指します。

生涯学習では、施策の3つの柱を掲げます。

施策の柱1の「きっかけを見つける」では、主な取組例として、子どもたちの職業観を育てる「職業探検少年団の活動支援」や大人になれば、ひたち生き生き百年塾の「市民カレッジにおける各種講座の充実」を推進します。

施策の柱2の「人生100年時代を豊かに生きる」では、主な取組例として、放課後等に、すべての子どもたちに安全安心な居場所の提供と各種体験の充実を図る「放課後児童対策の推進」や、高齢者のデジタル難民になることの無いよう、デジタル端末活用講座などを実施することにより、高齢者がメールやSNSなどを活用できるような支援を推進します。

施策の柱3の「支え合いともに生きる社会を創る」では、「郷土の宝」である「ラジオ体操の普及」に力を入れて、郷土愛を育み地域に向き合う仕組みづくりを進めてまいります。

次に、スポーツの推進テーマは、『スポーツでつながる 元気、感動、輝く笑顔』です。スポーツは、体力の向上や健康増進をもたらすだけでなく、人々を『笑顔』にし、時には『感動』を与え、地域の活性化に良い影響を与えるものです。市民が身近な場所で楽しくスポーツに親しみ、『元気』に生きがいを持って暮らせる環境づくりを進めるとともに、スポーツイベント等の開催による交流人口の拡大など、『スポーツを活用したまちおこし』を目指します。

スポーツでは、施策の4つの柱を掲げます。

施策の柱1の「市民の誰もが生涯にわたって楽しめるスポーツの推進」では、いつでもどこでもスポーツに参加できるよう、各種スポーツ教室のオンライン開催等の取組を推進する「DXの活用による様々なスポーツへの参加機会の提供」や「市民とプロスポーツ選手等との交流」などを推進し、交流人口の拡大や多くの市民にトップスポーツと触れ合う機会の創出を目指します。

施策の柱2の「競技スポーツとスポーツを支える団体の育成・支援」では、包括連携協定等を締結したプロスポーツチーム等と連携し「スポーツスクールやアカデミーの誘致」を図り、「総合型地域スポーツクラブなどの活動支援」を進めてまいります。

施策の柱3の「スポーツを通じた地域の活性化」では、市民の健康増進と「スポーツのまち日立」を目指すとともに、スポーツを活用したまちおこしの一環として、秋冬最大のスポーツイベントとして「フルマラソン」の開催を予定しております。

施策の柱4の「スポーツ施設の多様な整備」では、市民スポーツの拠点施設である市民運動公園野球場を再整備し、市民の交流拠点としての充実を図ります。

以上の内容を踏まえまして、教育への思いを、「人は一生学び続けるもの。文化や芸術、スポーツなどに親しみながら、市民一人一人が輝くための『教育』を応援します。」として日立市教育大綱を締めくくっております。

説明は、以上でございます。

市 長 ありがとうございます。
教育大綱の冒頭で述べております「人づくり・まちづくり・そしてみんなの幸せづくり」は、総合計画の本市の目指すべき将来都市像から引用したものでございます。

説明でもありましたように、子どもたちの大きな可能性を伸ばし、次代を担う子どもたちが笑顔で幸福を感じながら成長できるよう、まち全体で育むことが、私の願いです。

それでは、ここまでの事務局の説明について、委員の皆様から、ご質問やご意見があればお願いいたします。

委員からお願いします。

委 員 素晴らしい大綱ができたなと思います。

特に「人づくり・まちづくり そしてみんなの幸せづくり」というキャッチコピーは、いいと思います。前回の「笑顔・元気、そして未来へ」ももちろんいいですが、特に「自分が好き」という文言が加わったのがいいと思います。今までなんでなかったかなと思ったぐらいですが。やはり、一人一人が自己肯定感を高めてもらうこと、自分に自信を持ってもらうこと、これはやっぱりこれからのグローバル社会の一員としては、欠かせないものなのだろうなと思います。

それと教育のデジタル化について、ICT機器の配備が進んできたので、どんどん活用を進めていくことになるかと思います。その際の支援をしっかりとやっていくことも大事だと思います。

それともう1つ。部活動の地域移行が進められていますが、これを推進するためには、総合型地域スポーツクラブの資源を有効に活用することが必要だと思います。

市 長 はい、ありがとうございます。委員から教育大綱についての感想と質問がございました。事務局から回答をお願いします。

指導課係長 まず、環境教育の推進についてですが、地球温暖化など様々な環境問題の課題解決について考える環境教育を推進してまいります。

具体的には、総合的な学習の時間や各教科において環境教育に取

り組んでいくとともに、実践をすることで、持続可能な社会の創り手の育成を目指してまいります。

次に、部活動の地域移行に関してですが、国及び県の方針を受け、まずは、休日における地域の環境の整備を着実に推進してまいります。本市では、十王中学校校区でNPO法人UPOPO十王スポーツ文化クラブと連携した実証事業を実施し、部活動の地域移行に向けての課題と把握に努めております。また、県内最多の少年団数を誇る本市の強みを活かし、生徒の活動の受け皿となる少年団と推進していく予定です。

市長 ありがとうございます。

学校教育の中の6つの施策の柱のうち、「子ども一人一人に寄り添う教育の推進」があって、その中に部活動の地域移行がありますが、そういったものをしっかりやっけていかないと、先生方の負担が多い中で、なかなか子どもたちに向き合うことができないのかなと思います。

ただ、部活動が地域に移行されるだけで子どもに向き合うための時間を確保できるのかということもありますが、1つの原因としては、そういうのもあると思いますので、働き方改革をもっと進めていただき、子どもと先生がしっかり向き合うことが大事なのではないかと思います。

続いて、委員いかがでしょうか。

委員 質問はありませんが、感想と期待を述べたいと思います。

生涯学習がこれからますます充実して、幅広い世代の方へ支援が広がるようになっていってほしいと思っています。

20年後には、私の子どもも40歳前後になりますが、その頃に健康で心身ともに自立して生活できているのかと考えると、不安に思っています。どのような職業に就くのだろうか、収入はあるのかとか思います。

人生100年と考えると、そこからまだ60年を健康で仕事をしていく必要があるのだとすれば、健康増進プログラムだとか、就業者へのスキルアップ支援だとか、幅広く生涯学習を展開していってほしいと、親の立場からは思います。

市長 私も、「今は、人生80年時代じゃないから、100歳目指して一緒に私についてきてくださいよ」と話しています。自分の生き方にいろいろ悩みを持っていたり、先々どうなるのかということも思っている方がたくさんいるのではないかと思います。委員がおっしゃるように、これからはこれまで以上に困難な時代になるのではないかと思います。知恵を出し合って、人生100年時代を健康でいかに過ごしていくのかということが大事なのではないかと思っています。

それと、さきほど、事務局から説明のありました「生涯」の言葉について、「笑う」という文字が使われており、どうかと思う部分もありますが、もし現状を生かすとするならば、「生きる」という字を生かし、括弧書きで「笑う」という言葉も入れて、生涯（笑涯）という形にすれば、理解していただけるのではないかと思います。

続いて、委員いかがでしょうか。

委員 私の意見は、大体、委員がまとめてお話してくださったかなと思っていますが、市長もおっしゃっていた、「子ども一人一人に寄り添う教育の推進」ということで、子ども一人一人に個別に対応してあげないといけない時代になってきたのかなと感じています。

家庭の事情も多様になってきていて、家庭教育をお願いしたいこともかなわないところがあります。

例えば、一般的な家庭であれば、休日は家族で遊びに出かけたりすると思いますが、家庭の事情でそれがかなわない子どももいたりします。

そういう子どものために、小規模の体験活動などのイベントをたくさん作ってあげたりできればいいと思ったりします。

市長 家庭生活における格差が教育の格差になることもあると思うので行政としても「誰一人として落ちこぼれない」という教育でありたいと思っています。

子どもたちの家庭の状況については、日頃から子どもたちに接している先生が1番わかるのではないかと思います。ただ、一人一人と向き合うほどの時間がないと思うので、家庭と学校がもっとつながっていけば、子どもに教育が行き届いていない家庭を早期に発見して対応することができると思います。子どもは国の宝ですから、社会全体で子どもたちを支援していけるといいと思っています。

続いて、委員、お願いします。

委員 この教育大綱は、長期計画として網羅されていて、とても素晴らしいと思いました。大綱を支える人材とその人たちが活躍できる環境を私たちがきちんと作っていかなければならないと感じております。

また、コロナで数年分断されてきたような印象があります。異世代の交流とか連続性とかつながりっていうものを、もう少し意識して今後数年、進めていただければという感想を持ちました。

市長 社会的には、家庭内の暴力であるとかいろいろな問題がコロナ禍に起きていると指摘されていて、委員がおっしゃるように、人と人のつながりは大事で、それによって子どもたちもいかようにも成長すると思います。コロナ禍で分断はされましたが、人と人のつな

がりを大事にするような学校であってほしいと思います。
大綱についての、各委員からご意見をいただきました。
各委員のご意見に対して教育長からご意見ありますか。

教 育 長 貴重なご意見、ありがとうございます。委員から、「自分が好き」という言葉を入れたのは良かったのではないかとご意見をいただきました。

市長からも、「子ども一人一人に寄り添う教育の推進」についてお話をいただきました。

やはり、そこが根幹だと考えております。

家庭教育に関するご意見もいただきましたが、教員が子どもたち一人一人に寄り添いながら、保護者にも寄り添っていける教育というのをぜひ進めていきたいと考えております。

市 長 ありがとうございます。

各委員からいただいたご意見等踏まえて、大綱の改訂を進めてまいりますので、よろしく申し上げます。

(2) 未来を拓く資質・能力の育成について

I グローバル社会を生きる子どもたちに必要な教育の推進

市 長 それでは、続きまして、2つ目の議題に移ります。

「未来を拓く資質・能力の育成について」のうち、「グローバル社会を生きる子どもたちに必要な教育の推進」について、教育部長から説明をお願いします。

教 育 部 長 議題2「未来を拓く資質・能力の育成について」ご説明します。

まず、ローマ数字Ⅰ グローバル社会を生きる子どもたちに必要な教育の推進についてです。

グローバル化の進展の中で、英語を「聞く」「話す」「読む」「書く」4技能を活用して実際のコミュニケーションを行う言語活動を一層重視し、積極的に英語を話そうとする態度を育成することと、英語を用いてコミュニケーションを図る体験を積むことが必要です。

そして、社会のグローバル化への対応のため、自国の歴史や文化などの理解を深める機会を充実させることも、大切になります。

また、国際共通語である英語教育の充実は、大変重要です。

日立市においては、「英語を使って何ができるようになるか」という観点で、ALTによる授業支援の中で、自分の考えや気持ちなどを簡単な英語で伝えたり、相手の気持ちを理解して受け答えたりする言語活動を授業に取り入れ、主体的なコミュニケーションを図ろうとしています。

そして、間違いを恐れず、英語に親しむことで、苦手意識をなく

していく姿勢を育んでいます。

小学校1・2年生では、朝の会などを利用し、15分の時間で年間9回ほどALTによる英語に触れ親しむ機会があります。

小学校1・2年生からALTの英語に親しむ取組は、本市独自の取組です。

内容は、あいさつや歌、絵本の読み聞かせ、ネイティブの発音を真似ることなどで、英語特有の音やリズムに親しんでいます。

小学校3・4年生では、身振りや表情、ジェスチャーなどを交えながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝えられるよう、ALTの授業支援によりコミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成に努めています。

小学校5・6年生では、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝えられるよう、ALTの授業支援によりコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成に努めています。年間を通して70時間の授業時間が確保されています。

小学校1年生のうちから、英語に触れたり親しんだりする時間を持つ本市の取組は、特徴的であるといえます。

本日は、金沢小学校2年生と4年生、仲町小学校の6年生のALTの授業支援による英語の授業の様子をまとめたもの、また、11月5日に行われたひたち国際文化まつりにおける中学生の発表、9月15日に行われたプレゼンテーションフォーラム県大会における助川中学校の発表の様子を動画でご覧いただきます。

視聴後、グローバル社会における人材育成についてご意見をいただきたいと存じます。

(動画視聴)

市長 ALTによるコミュニケーション能力の育成を目指した、小学校における英語の授業風景などをご覧いただきました。これからグローバル社会を生きる子どもたちに、どのような教育が必要か、委員の皆様のご意見やお考えを伺いたいと思います。はじめに委員からお願いいたします。

委員 これからの教育の姿がこうあるべきだということを感じました。まさにアクティブラーニングだと思いますが、これを充実させていく方向性を示していただいたと感じています。

それからあと、話が戻りますが、コミュニケーション力の育成に力を入れていただきたいと思います。学校教育の中で英語ばかりでなく、日本語でも自分の考えを根拠を持って発言できるように育てていくことも大事だと思います。

それともう1つ、これから生きていく子どもたちの力としては、考えたりとか表現したりするための知識だと思います。新しいものに

ばかりとられるのではなく、知識、要するに基礎的な力、学力を子どもたち一人一人に保障していくことをやっていかなきゃいけないと思います。

市長 ありがとうございます。
委員いかがでしょうか。

市長 ありがとうございます。
委員から、基礎的な学力の定着が必要であるというようなお話がございました。そういったことが、誰一人取り残さないことにもなるのではないかと思います。
これについて、教育委員会から回答はありますか。

教育長 委員がおっしゃったように、まずは、知識基盤社会と言われる中で、幅広い知識や柔軟な思考力に基づく自分なりの考えをしっかりと持って、論理的に伝える力、コミュニケーション能力が、ますます大切になってくると考えております。
また、グローバル社会の中で、多様な価値観を持つ人たちと意思疎通を図る力の充実が必要だと考えております。

市長 ありがとうございます
委員いかがでしょうか。

委員 小学生が楽しく英語を学んでいる姿が見られてよかったです。日本人も日本語を正しく使えない中で、英語を正しく使うという考え方がおかしな話なので、間違ってもいいから、語学を使って何かを得ようという姿勢、新しい考えに触れていこうという姿勢が大事なんじゃないかなと思います。
委員、教育長の話にあったように、様々な経験をしたり人と接していく中で、自分の考えを意識することが第1段階で、それを例えば、英語を使って共有してみて、相手と意見交換をしていく中で、柔軟に考え方や対応を変えていくというような柔軟な思考がこれからは大事なのではないかと思います。繰り返しになりますが、子どもたちには、英語はゴールではなく、何かを学ぶためのツールだということを感じながら成長していったほしいと思っています。

市長 総理や日本代表する政治家が外国へ行った時に、お互いに英語で普段の話し合いをしながら雰囲気作りをしている場面と、反対に英語で会話ができなくて、孤立しているような状況を見ることがあります。今の時代は、国際社会で会話ができるように英語を教えたらいいのではないかと、という気持ち先走ってしまっていますが、日本語で考えることを大事にして、英語が相手に自分の気持ちを伝えるた

めのツールとして使えるようになると思います。

子どもたちが、英語を使って自分の考えを伝えようとしている動画を見て安心しましたが、母国語である日本語を大事にしていかなければならないと思います。

続いて、委員いかがですか。

委員 私も同じような感想ですが、アクティブラーニングとか、対話が必要になってくるところが多いと思います。

私が関わっているような子どもたちは、そういうのが苦手な子が多く、対話型の授業があると、ちょっと憂鬱だなんていう子もいたりします。

先ほどの動画のように楽しくコミュニケーションが取れる英語の授業は、そういう子たちにとっても、意味のある時間かなと思います。

それと普段使っている日本語を英語に置き換えるときに、自分が感じていることと、考えていることを改めて見直す時間にもなったりするのではないかと思います。

市長 ありがとうございます。

私もニュージーランドに行った時に、現地の小学生たちがタブレットを持って教室の床の上に転がって勉強していました。

先生方たちはその状態のまま指導していて、日本のようにきちんと座って教えてではなく、自由な姿勢でタブレットを見ながら先生と授業していて、いかがなものかなとも思いましたが、先ほどの動画で見たように、教室の中を自由に動き回りながら、楽しんで勉強をするということは、昔はなかったなとも思いました。

続いて、委員いかがでしょうか。

委員 アウトプットする機会を増やさなきゃならないのではないかと感じます。教育環境から見ると、外国人の留学生をいっぱい呼び込んで、そういった教室を作って、その中で交流してもらおうとか、インターネットを使って、姉妹都市の学校の小学校の授業に参加したり、交流する機会を作ってあげるのもいいのかなとも思いました。

市長 今のお話はとてもいいなと思います。

日立市にも留学生がいっぱいいらっしゃるような状況もあるでしょうから、できれば私はキリスト教学園がもう少し国際色豊かになるようなことを要望していますが、なかなか難しいようです。

いずれにしても、先ほどの動画を見て英語教育が進化しているなとも思いました。

この協議事項については、よろしいでしょうか。

では、続きまして、「ICT機器を活用した効果的な学習の実践」

について、教育部長から説明をお願いします。

(2) 未来を拓く資質・能力の育成について

Ⅱ ICT機器を活用した効果的な学習の実践

教育部長 ICT機器を活用した効果的な学習の実践でございます。電子黒板は、本年の11月中旬に小中学校及び特別支援学校の全普通教室に配備させていただきました。電子黒板が授業中に、どのように活用されるのかをご覧いただきたいと思います。電子黒板を使うと先生方の教材作成や指導する1回ごとの質を高めるという点で、働き方改革にも通じる非常に期待される機器だと考えております。それでは、教育委員会の指導課の指導主事から実践という形で、皆様にご案内させていただきます。

(電子黒板の活用に関する指導課、指導主事による実演)

市長 ありがとうございます。
ICT機器の電子黒板について、ご説明をいただいたところで、ご意見等ありましたら、委員いかがでしょうか。

委員 電子黒板はタブレットとつながることができるので、特に個別最適な学びとか、対話的な学びに活用ができると感じました。
一方で、電子黒板の活用度合いが、先生によって違ってしまわないかという点が少し気になります。いろいろなアプリも出ているので、若い先生方は、どんどん使えるのではないかと思います。年配の先生は慣れるのにちょっと時間がかかるだろうと思います。
使い慣れれば、負担軽減につながっていくけれども、慣れない先生にとっては逆に負担になってしまうと思うので、そこをカバーするための研修などをお願いしたいと思います。

市長 はい、ありがとうございます。
まとめてご意見をいただきたいので、委員いかがでしょうか。

委員 子どもたちはこのような素晴らしい機器を使ってどんどん育っていくのだなと感じました。これからは、AIやICTなどがますます浸透して行って、子どもたちが大人になる頃は、ワークシェアだとかメタバース入社だとか、フリーランスで仕事をしたりと、働き方がどんどん変わっていくと思います。不確実なものに対して準備することは難しいと思うので、子どもたちの心の育成というか、自分の未来を自分で作っていくという、姿勢の育成とICTの活用と同時に並行してやっていくことが大切だと拝見しながら思いました。

市長 ありがとうございます。
委員いかがでしょうか。

委員 先日、学校訪問をした時に、各学校で電子黒板を使っているところを見ることができました。楽しそうに授業をしている姿が見られたので、すごく良かったなと思いました。

今後も、研修の機会とか年配の先生たちも使いやすいような、ご指導をしていただけるといいかなと思いました。

委員からも話が出ていましたが、メタバースなどが広がってくるかなと思いますので、今日の話とは違ってしまいますが、ほかの市町村だとメタバースの登校支援を行っているところもあったりします。不登校の子どもたちの支援ができるように、バージョンアップしていかなければならないのかなと思いました。

市長 ありがとうございます。
続いて委員からお願いいたします。

委員 電子黒板は、かなり便利な、使いやすい機器のようなので、使っているうちにどんどん慣れるのだろうなと感じました。

授業準備等にかかる時間の短縮で空いた時間を一人一人の子どもたちに目を向けてあげて気を配れるようにお願いしたいと思います。

市長 ありがとうございます。
各委員からお話ございました。指導主事から回答をお願いします。

指導主事 ご意見どうもありがとうございました。

年配の先生方が電子黒板をうまく活用できないのではないかと、というお話ありましたが、授業が上手な先生ほど率先して使いたがるという印象があります。実際、若い先生と年配の先生で、どちらの方が上手に使えているかというと、意外と年配の先生の方が上手に使っていたりします。細かい機能を使いこなせるのは、若い先生の方が多いです。

また、電子黒板のメリットとして、書き込めて、大きくできるという点そのほか、連絡帳機能やサブのホワイトボードみたいな使い方もできます。

研修体制については、GIGAスクール構想でいろいろなICT機器が入ったことをきっかけに学校内でのICTに関する研修体制は、だいぶ進んでいます。若い先生から年配の先生まで自主的に校内研修をする文化がかなり醸成されてきていると思っています。

今後もできる限り支援できるように、研修資料などを提供していこうと考えています。

今回はノートを書き写す機械として、実物投影を使用しましたが、ほかの機能をご紹介しますと、例えば、不登校の子どもが授業の様子を映像で確認できるようにしたりすることが簡単にできます。もちろん不登校だけじゃなくて、遠隔地からのゲストティーチャーによる講義を行ったりすることもできます。以上です。

市長 ありがとうございます。

電子黒板の整備は、令和5年度と6年度の2か年で整備することを計画していましたが、前倒して単年度ですべて整備しました。有効に活用していただけているなと思いました。

疑問があるのですが、1日学校で学習して、子どもたちは紙の教科書やノートに書き移していれば、うちへ帰ってから予習や復習をできると思いますが、デジタル教科書の場合、子どもたちは予習・復習はどのようにしているのでしょうか。

指導主事 今のところ、基本的には紙の教科書とノートを使用して予習・復習をすることが多いです。

今はちょうど変わり目の時期になってきていて、デジタルドリルで今日の授業でやったことに関連する宿題を出すとか、そういう取り組みは、かなり広がってきています。中には、youtubeの優秀な教材などもありますので、それを事前に見てきて、授業を進めるという取り組みも、徐々に始まっていると聞いています。

市長 昔も今も授業の予習・復習をすることが学習の基本だと思います。

児童生徒のデジタル機器の使い方に関するサポートと、先生方の指導力の向上についても一緒になって考えていけると素晴らしい授業を展開できると思うので、引き続き有効に活用できればと思いますので、よろしくお願いします。

本日の総合教育会議でいただいたご意見などを踏まえながら、本年度は、学校教育、生涯学習、スポーツの計画の策定年度ですので、この計画に基づき「教育は日立市で」と思えるような教育を推進していきたいと思います。

それでは、進行を事務局にお返しします。

3 閉 会

総務課長 皆様、長時間にわたり意見交換をいただきまして、大変ありがとうございました。

事務局では、本日いただいたご意見をもとに施策の形成を図ってまいりたいと思います。

以上をもちまして総合教育会議を終了いたします。

本日はありがとうございました。

以 上